



AS I A G A Pの継続に向け審査を受ける農場関係者⑥

9/24

## 団体認証継続 に向け審査

J Aブランド米部会

AS I A G A Pの団体認証を継続するための維持審査に臨みました。「金色の風」と「銀河のしずく」を生産し認証を取得している7農場のうち、3農場で審査が行われ、栽培管理出荷記録などの書類、作業機械や農薬、肥料の管理状況などの審査を受けました。



収穫時の注意点を確認する生産者

9/29

## 中生種の適期収穫を指導 J A果樹部会りんご専門部

リンゴ中生種収穫指導会を管内3会場で開催、中生種の収穫のポイントや栽培管理について確認しました。一関農業改良普及センターの遠藤歩美上席農業普及員は「農薬散布後は、規定の日数が経過したことを確認してから収穫するように」と呼び掛けました。



指導を受けながらコンバインを操縦

9/26

## 米卸社員が生産者と交流

米卸の（株）ヤマタネは（農）みらい農産（一関）の圃場で稲刈り交流会を行いました。ヤマタネの社員研修の一環として行われ、5月には田植えを体験。みらい農産社員やJ A米穀課職員の指導を受けながらコンバインを操縦し、稲刈り作業を体験しました。



一生懸命に競技に挑む部員

9/18

## レク通し部員交流深める J A女性部千厩中央支部

レク大会を開き、千厩町の奥玉、小梨、千厩の3支部約30人が参加しました。風船割りリレーや応援合戦、〇×クイズなど6種目に挑戦し、心身共に充実した様子を見せました。



タオルを利用者に贈呈

9/22

## 元気に過ごせるようお願い J Aハートフル川崎支部

寿松苑デイサービスセンター（川崎）を訪れ、川崎町女性協議会と協力して歌や踊りを披露した他、会員が集めたタオルを贈り、利用者が元気に過ごしてほしいと願いました。



脳トレを交えながら講習を受ける参加者

9/16

## 認知症サポーターを理解 J Aハートフル室根支部・千厩支部・大東支部

3支部合同で認知症講話を開きました。認知症サポーターの役割や市の制度、認知症の症状などに理解を深め、認知症の人に声かけする時のポイントなどを学びました。



玉串をささげる佐藤組合同長

10/17

## 家畜の御霊に感謝ささぐ

みたま

畜霊祭をＪＡ藤沢営農経済センターの牛魂碑前で行いました。生産者や関係機関が、管内の畜産振興に貢献した家畜の御霊に感謝をささげました。佐藤一則組合同長は、「畜産に関わる全員で力を合わせて、この難局を切り抜け畜産振興につなげた」と話しました。



要請書を佐藤善仁市長⑥に手渡す佐藤一則組合同長

10/3

## 適正な価格形成など要請

ＪＡは営農振興に関する要請書を岩手県と一関市、平泉町へ提出しました。生産コストに見合った適正な米の価格形成を国に働き掛けることを要望した他、園芸部門では水源確保工事の助成、畜産農家の経営継続や牛舎の暑熱対策への支援を要請しました。



稲を刈り取ってホニオに掛ける児童

9/26

## 鎌使い真剣に稲刈り体験

赤荻小学校（一関）

5年生43人は、阿部邦弘さん（一関）の指導で稲刈りを体験しました。児童は真剣な表情で鎌を使って稲を刈り取り、上手に束ねることができると笑顔を見せました。



生協組合同員と生産者が稲刈りで交流

9/28

## 生協組合同員と稲刈り交流

都里夢米生産振興協議会（一関）

生活クラブ生協岩手との稲刈り交流会を開き、手作業で稲刈りを行い、収穫を喜びました。昼食には「銀河のしずく」のおにぎりといものこ汁を食べながら交流を深めました。



サトイモの茎とネギをカットし開会を祝う関係者

9/27

## 地元産秋の味覚楽しんで

磐井河原いものこ会実行委員会

第42回磐井河原いものこ会が一関遊水地記念緑地公園で始まりました。市内外から友人同士のグループなどが多数利用し、管内の食材を使った「いものこ汁」を堪能しました。



稲を刈り取り束ねる児童

10/9

## 稲刈り体験出来秋に感謝

川崎小学校

5年生17人は、（農）門崎ファームが管理する「メダカ田んぼ」で稲刈り体験学習を行いました。たわなに実った稲を手鎌で刈り取り束ねてホニオに掛け、出来秋を喜びました。



種子散播のために空を飛ぶドローン

10/14

## ドローンで小麦種子散播

（農）プロファ一関

ＪＡ全農いわてへ業務委託し、ドローンで小麦の種まきを行いました。業務委託は今年で2年目。自給飼料の確保のため、ホールクroppサイレージとして利用されます。



子牛と触れ合う児童

10/9

## 牛と触れ合い酪農に理解

岩手県牛乳普及協会

酪農出前教室を一関小学校で開き、2年生92人が授業を受けました。酪農家の平間一夫さん（一関）の指導で乳牛や子牛と触れ合い、酪農や牛乳への理解を深めました。